

(資料)

本多静六著 『隠れたる木曾の風景と利用策』 (大正二年) の現代語訳

Texts Translated into Modern Languages of "Potential Landscapes and their Usage Strategies in the Kiso" in 1913

加藤 愛望\* 小林 来実\* 竹内 梢\* 横関 隆登\*

Mami KATOH\* Kurumi KOBAYASHI\* Kozue TAKEUCHI\* Takato YOKOSEKI\*

\*長野大学環境ツーリズム学部

## 【底本】

名称：『隠れたる木曾の風景と利用策』

著者：本多静六著

刊行：欠年

項数：十五項

所蔵：東京大学大学院農学生命科学研究科森林風致計画学研究室

備考：底本の刊行年を大正二年刊行雑誌『太陽』十九卷六号を基に想定

## 【作業方針】

見出しと全文を作成した。見出しは全文から抽出した。書き方向は、原文のとおり縦書きとした。一行あたりの文字数は、本稿の様式に適合させ変更した。字体は、現代の常用漢字体に統一した。踊り字については、現代語に組み直した。現代的な読み易さを加味の上、語尾を簡素な表現に改めること、長文に句読点を付加すること、など修正を施した。明らかな誤植は正当な表現に訂正した。なお、難読な漢字には、隅付き括弧「」を附して読み仮名を示した。底本には本文中に図面も掲載されるが、本稿では現代語訳を意図するため、作業対象外とした。

## 【見出し】

長野県と木曾の風光

木曾本谷の中心  
木曾谷の利用法

(一) 小丸山

(二) 関山公園

(三) 福島町の後方に位する城山

(四) 福島町の市街

日義村の大原

德音寺

藪原付近

寢覚の床

蘇峽「そきょう」一帯

賤母「しずも」御料林「ごりょうりん」

王瀧道路と常盤橋

鞍馬「あんば」の景

水ヶ瀬

御嶽神社

田立の瀧

備考

(一) 避暑地、遊覽地、回遊線

- (一) 乗車
- (二) 表示、案内、名物産
- (三) 路傍のモミジ、サクラ

## 【全文】

長野県と木曾の風光

抑々「そもそも」山水風景は世界的美術にして、一国若しくは一個人の独占を許さず、況「いわ」んや破壊を、蓋「けた」し天然の風光は自然と称する巨匠の傑作なれば、世界各国の人々何れも之を觀賞し得ざる可らず、随つて山水風景を有する国家若しくは個人は益々その美を發揮せしめて広く之を世に紹介開放し、其保存義務に努める義務がありとす。現に彼の仏国雷里「フランスパリ」市に本部を置ける万国風景保護協会の如きは、専ら天然の山水風景の保存を図り、世界各国をして各自其山水風景を維持保存させることに努めつつあり。

美を説くものは利を言ふべからず、しかも天然の山水風景は之を所有者より觀る時は美に天与大資本にして、巧みに之を利用するに於ては巨大なる生産資本と同一の用をなすものなり、故に欧米各国に於ては到る所其天然の風光を利用して諸種の設備をなし、広く之を世界的に開放し廣告し、単に其国の誇りとなすのみならず、旅客を吸収することにより、密かに大なる利益を挙げつつあり、彼の瑞西国「スイス」の如きはアルプス山中の一小国にして氣候慣例なるが為め、従来生産物少なく、唯僅に牧畜と林業とによりて、生計を営み來たるも、一朝其天与の山水風景を利用し、山村水郭各遊園的設備をなして盛に外国の遊覽客を誘致し此等旅客と避暑客との為めに大いに収入を増加したるを以て、今日に於ては欧州中富強の国の一として計へられるに至れり。

今、茲「こゝ」に長野県が木曾谷に於ける風光調査を企てたるは、一面に於いて世界的人道の義務を果すものなると同時に、此木曾谷又は長野県の経済上否寧ろ我が帝国経済上の状態に鑑み、真に機宜を得たものと言はざる可らず、然るに本調査たる蘇峽「そきょう」二十余里「あまり」の間に亘り、自然的風景美の現存せる個所と然らざる個所との調和を保ち、之を学理に鑑みて千百年の後迄も不変ならしむる大方針を定めざる可らざると同時に、一方にはまた現時に於ける一般の嗜好と経済状態に徴し、其施設容易に実行し得るものたらざる可からず、故に此調査たる美に容易の業にあらず、未熟なる余輩の如き到底其任を堪ふる所に非「あ」らざるも、我國は未だ此等調査に適する専門家なるものあることなく、余輩誤つて本調査の任に当たりたる以上は、努めて虚心恒懷によつて自然の教ふる所に従い自ら我が脳裏に浮びたる要領を述べんと欲す。

木曾谷の利用法

先ず大體「だいたい」に於て木曾の本谷所謂木曾路南北二十四里に亘る沿道に就き視るに、其の自然的風景は既に殆ど破壊し尽くされたりと云うを得べし、俗謡に「寂しかるぞえ木曾路の旅は笠に木の葉が舞ひかゝる」なる語の風流を偲はるる個所は、今日實際発見する能はず、多くは桑園麦畑其他の農耕地と變じて樹林を見ることなく、賤母御料林「しずもこりよりん」中の沿道約三十町許「ばか」りの間のみ僅かに昔時に於ける木曾路の佛を留むるに過ぎず、彼の佛国「フランス」大思想家ルーソーが「自然の手にによりて成れるものは総べて美なり、人の手を經て腐敗す」と道破せる現象は、遺憾なく木曾路に発見せられたるなり、但し今日と雖木曾の本谷を距「へだた」り人煙稀少な枝谷に入れば、尚木曾五木の鬱蒼たる美林を見るを得できも、先年汽車全通以來、一層迅速に此等森林の伐採利用せらるる傾向あるが故に、今尚幸に残存せる天然の美林中、木曾風景上に必要なる部分は、將來に於ても永久に破壊せられざる様予め施業に制限を加へ、更に進んで一般木曾谷に於ける風景美を恢復「かいふく」維持する方法を講じ、以て之を広く世界に紹介し、且之が利用を図らざる可らず、而して木曾風景美を広く世界に紹介し、之を利用する途は大別して避暑地及び遊覽地の二種に区分し得べし。

避暑地としては大體「だいたい」に於て、福島町より木曾本谷の上流島居峠に至る間を可とすべく、殊に日義村大原の如き、海拔三千尺に達し、氣候の冷涼なる清冽「せいれつ」玉の如き用水の豊富自由なる。人煙の稀少なる、平原廣豁「こうかつ」にして眺望の佳絶なる事等は、別荘地として好適の地なり、例令避暑に好適の地なるも、別荘地の附近に農家の多き時は牧畜肥料等により諸種の汚物を散乱し、臭気を送り、殊に夏季は蠅多くして来遊者の嫌悪する所となるを以て、之を避けざるべからず。

島居峠付近も氣候上別荘地として適當な個所ありと雖、面積が狭少に過ぎ、又

敷原の上段は面積が廣大「こうだい」なるも一帯畑地なるを以て、別荘地としては大原に劣る、尚大瀧村の奥水ヶ瀬附近一帯の森林内は、今日林木を濫伐する事なくして只交通の便を開くに於ては、将来最も適當なる避暑地、別荘地となるべし、帝室林野管理局はこの点に就て、十分用意があらむことを望む。

遊覽地としては、木曾本道なる賤母御料林「しずもこりよりん」と田立の瀧及び妻籠の城山の連繋せるものを第一の回遊線となすべし、即ち田立瀧より賤母御料林「しずもこりよりん」の国道を経て城山に攀「よ」ぢ、三留野「みどの」より鉄道便に依るは最も適當にして、且最も容易に設備すべき回遊線となす。

第二回遊線は来る大正参年度より、木曾川本線より王瀧村に至る間に敷設せらるべき森林鉄道を利用し、即ち三岳村の常盤橋、王瀧村の鞍馬等の風景を採常盤橋及び王瀧村の鞍馬等の風景を採りつつ王瀧村に至り、夫れより千秋街道に入木曾の美林を視察し、小川の森林鉄道に結びつけたるものとす。

第三回遊線は第二線中にある三岳村の常盤橋、王瀧村の鞍馬等の風景を採り、更に王瀧村及び水瀬を経て、鹹川「うぐいがわ」又は濁川温泉に至る森林美を視察して王瀧村に還り、次に王瀧よりちあき街道を経て小川若しくは阿寺の森林鉄道に結びつけるものとす。

然れども今回の調査は時日少なく、精細に此の辺を研究するあたはざりしは遺憾なり、しかしながら将来御料林業の進むと共に森林鉄道を敷設すべきことによつて之を利用し、これらの回遊線を設置し得べきは信じて疑わぬ所なり。

#### 木曾本谷の中心

福島まちは木曾本谷の中心市場なれば将来他の木曾谷一帯の風景利用の進歩に伴日、自然に発達すべきは勿論なるも、更に自ら進んで幾多の設備を要す、今其おもなるものをあげれば次の如し、

##### (一) 小丸山

小丸山は福島村の遊戯地、眺望地として又諸学校生徒の運動場として適當なり、天然の地勢二個の丘陵起伏し、その中央に凹垣なる場所あるを以て、周囲の丘上を觀覽場となし、中央部は少しく地均らしをなして遊戯場となし、丘上には山櫻、モミジ、ホオノキ等の二間以上の大木を三株四株つつ、寄せ植えとし、日陰を作るを可とす、而して運動場限及び其附近は前記日除樹の外は、一回雑木を刈り払ひ

て草と共に丁寧に焼き払ひ、其残存せる樹根は之を掘り取りて地面を平均し、雑草即ち茅又は草のみを発生せしめ、其の雑草を年々五回以上成るべく屢々「しばしば」刈り取ることに於いては、遂に庭芝の如き柔軟なる短草を有する美しき原野となることを得べし、又現在茶亭の附近は諸種の草花又はツツジ類を植込む時は一層美觀を添ふるを得べく、尚運動場に供せざる部分一帯も、雑木を掘取りて雑草のみの原野となし、年々丁寧に焼き払ひ且屢々之を刈り取るに於ては、雄大な原野の風景美を發揮し得べし。

##### (二) 関山公園

関山公園は現在の方針の如く櫻樹を植え付け、觀櫻に供する外差当たり大いに之を利用し得る見込み立たず。

##### (三) 福島町の後方に位する城山

福島町の後方に位する城山は幽邃なる美林にして、すでに完全なる林道を有し、最も便利に木曾周辺の標本を示し得る森林なれども、現在の状態にては余りに幽邃に、且余りに猥素「はくそ」に墾き、普通一般なる遊覽者の嗜好に適合せず、故に少しく之を手入れ改良する必要がある、即ち其方法として本林の下方大部分を自然的森林植物園とし、林道の両側に遊歩者の見得らる樹木に亜鉛板の釘付けとし、其札には樹名を仮名、漢字及び羅句「らてん」名の三體に書き、且つ著しい大木には樹齡、樹高、幹圍等を附記し置く時は、単に学生生徒の修学旅行地となるべきのみならず、一般の遊覽者にも大いに知識を与へ、自ら趣を持たしむることを得べし、此等樹園の仕事は木曾山林学校の経営に委するが如き亦妙策となす。

尚本林内には今日既に多数の樹種を有し、木曾に於ける主要なる種類を尽せるが如きも、さらに上部樹林の疎開せる所には、本林に不足せる樹木殊に木曾山林沖に存する灌木雑草の類を移植するときは、直ちに過百種の樹木を具備せる一大植物の園となり、人は此城山内に於いて木曾山林の全植物を見得る便を生じ、此点のみに於いても大いに旅客を吸収し得べし、抑々「そもそも」此自然的森林植物園は近時欧米に盛んに行わるる所にして、自然の森林内を逍遙「しょうよう」しつつ植物を学び得しむべきものにして、却つて箱庭的植物園に勝る効用あるものなり、只林内を十分清潔にせざる時は、却つて不快の念を起すものなるを以て、能く林内殊に道路の掃除を怠わざる様に注意せざるべからず、彼の路傍に弃当の折

箱紙屑等の放棄しあるが如きは常にこれを掃除し、一か所に集めて焼き捨つる方法を探らざるべからず、但し道路外の林下は時々雑草を刈り払うのみにして、彼の落葉、蘚苔又は可憐な下草類の如きは、却つてこれを自然の儘に存置するを可とす、道路面の如きも秋冬の間は落葉を残して、屑紙其の他の枯れ枝等のみを除くことを可とすべし。尚下部の積平坦な林内十二町歩の地を劃「わく」して簡単な柵圍を成し、鹿、野猪又は猿等を飼うことを可とす、これ等は何れも愛嬌ある動物にして小児婦人等を衆知すべし、是亦近來欧米に流行する自然的動物園の一種なりとす。

総べて公園内の設備は来り遊ぶものをして、最も容易に園内の道路並に展望地、瀑布「はくふ」其他に遊覽すべき場所の位置遠近を明らかならしむる必要があるが故に、園の入り口又は樞要「すうよう」の地には木又は紙に略図を描いて之を揭示し、道路の距離諸設備の位置等凡て一目瞭然にならしむるを要す、又風景絵葉書を販売し其絵葉書又は包紙に案内図を添ふるが如きは更に妙なるべし。

尚茲に些細な事柄なれども、城山山林の下部に墓地を散見することは甚だしく悪觀をあたふるものなれば、これ等は他に見えざる様、アラキ、マサキ、ヒバ、イチキその他常緑樹を密植して之を隠蔽する様なきべからず、又公園内には必要所に便所を設くる必要があるは勿論なれども、直ちに林内道路より見えざる様、其周圍に常緑樹を植ゑて之を隠蔽すべし、但し其隠蔽する中に便所のある事は容易に解し得る様目標を造るべし。

#### (四) 福島町の市街

福島町の市街を木曾谷の中心なれば、漸次蘇峽の一般改良發達に伴い、今後改良を要する点少なからず、就中旅館の如きは其第一にして、旅館の良否は将来遊覽客吸収上多大の關係を有することで大改革を加えなければならぬ。殊に便所は磨硝子等を用いて内部を明るく清潔になすこと、又便所の戸は内より鍵を掛ける設備をなすこと、風呂場及び洗面所を清潔になすこと、宿料其他の費用を各等に分ちて一定すること等は最も急務なりと言ふべし。

尚一般町内の道路より見える所の便所、流し元其の他の不潔物は、一切往來より見えざる様柵圍をなし、又はアラキ、マサキ、イチキ等の常緑樹を植込み、町内又は町外散策保養の遊客に対し、不快を感じしめざる様努めざる可らず、歐洲「お

うしゅう」にては大抵市街の美化に関する市街美化委員なるものがありて、諸種の外觀裝飾方法に關し、指揮干渉を加へ居るを以て、苟も市街の秩序を乱又は美觀を損するが如き建築及、着色物等の如き（廣告杯「こうこく」とも含む）は、直ちに之を改造せしむるものとす、故に福島市に於ても出来得べくんば町内の衛生並に美化委員を設置し、諸種の裝飾に關し干渉を試むるを可とす。彼の道路附近に於ける婦人の用便肥料溜等は甚だしく來遊者の嫌厭を買ふ所なれば、成る可く注意して是等を改良せしむべし。要するに避暑地其の他遊覽地としては、清潔と懇切とは最も注意すべき点なりとす。

#### 日義村の大原

思ふに太古駒ヶ岳連嶽の崩壊押しにより、一帯に土砂の流出せる土地にして、木曾川沿岸中比類なき大平原なり、位置は海拔三千有余尺にして面積又三百町歩に余り、同村区有地原野にして氣候冷涼、加えて土壌は花崗岩「かこうがん」の分によるものによつて土砂清浄水質清冽、夏季は雨量少なきも上流より原野の中央高所を通して奔流せる溪水は、無数に之を分派して随意に利用し、日常の用水は勿論各別莊の池沼用にも十分なるを得べし、蓋「けだ」し此用水の清冽「せいれつ」豊富自由な点は到底彼の富士見又は軽井沢の遠く及ばざる所なり、殊に土地使用料の如きも現在極めて低廉（現在の借地料壹反歩「いちたんぶ」年に貳圓四拾錢乃至參圓「にえんよんじゅうせんないしさんえん」であると云ふなれば、今より規約を設けて急に之を高むるの弊を防ぐに於ては、別莊地として好望の個所たるを得べきか、而して將來施設の方針としては先づ此平原を縦に貫通する主要な車道を造り、其他の道路も大體「だいたい」に区割予定し置き、以て別莊建造の地割をなすに便ならしむべし、又避暑客誘引の第一挙手として先づ地方の有力家又は村に於て、所謂サソイとして數個の貸別莊を造るも一法なり。

尚避暑客の慰藉法としては、その附近に名所舊跡として知られたる明星岩、手習天神、義仲公旗揚げ八幡、小枝の松、巴ヶ洲、砂ヶ瀬の紅葉、今井兼平の墓等に遊覽的設備（即ち道路、休息場、立札等）をなし、自由に探勝せしむる事甚だ必要なり、只此大原に於て一の欠点となすは、此原野に牛馬を放牧するが為め蠅類の多い事なり、故に此を將來避暑地として警言せしむるには、放牧を禁する可又は他の方法により此蠅を減ずる方法を講ぜざる可らず、蠅はもと蛆より孵化するも

のなれば、蛆の生活所となる牛馬糞其他不潔地、停滞する湿地等に清潔法を施すに於ては遂に之を絶滅するを得べし。

#### 德音寺

氣候冷涼且岩間より湧出する泉水清冽「せいれつ」にして他に類例少ない好字なれば暑中休暇の間避暑学生等の用に供するには甚だ宜し、殊に夏季講習会を此寺に開催するは最も可なり、此附近一帯空氣が清涼にして避暑に適當な個所なれば、寺院其他民家の座敷等を清潔にし、之を簡易に貸付く方法を採るは避暑客を誘致するのに良方法なりと云ふべし。

#### 藪原付近

藪原駅は海拔三千三百呎「フイート」にして、我国停車場所在地中最高地の一に数えられ、尚上部鳥居峠の如きは海拔四千四百呎の高燥地にして氣候冷涼、且附近清潔なるは別荘地として可なりといえども、諸物資の供給不便なると、概ね險岨地にして土地狹隘に過ぐるは惜しむべし。又藪原村上部一帯の地は面積に於ては十分なりと雖、既に開墾して一帯に畑地なるは別荘地として、欠点なり。由来避暑地は其別荘附近一帯の原野なるか又は美林なるを要し、肥培耕耘を要する田畑の間にては十分の発達をなし難きものなり。然れども天然の氣候は甚だ冷涼なるにより、藪原の上部より鳥居峠附近が多少の別荘地となるべき見込みなきに非らず。故に之が準備として両側に適當なる並木を植えて散歩の便に供すべし。其樹種、未だ確定し難しと雖、成る可く多少は利益を収め得る柿其他果樹類を選ぶべし。而して並木植付に付きて注意を要するは、すべて並木とすべき樹木は数年間畑地に於て高さ二間内外枝下七尺位に養成し置き、数百本同時に植付け、且其地方の青年団等をして之を保護せしむる策を取るべし。然る時は割合に盜伐等の憂少なかるべし。

#### 寢寛の床

遊覽地として已に有名な個所なるも、保護の方法宜しきを得ば、尙今日より一層の美観を發揮するを得べし。由来該所は岩石より成りたるため、其固有の形状奇観の破壊を免れたりしも、其周囲の森林美は殆んど已に破壊しつくされたりと云ふを得べし。故に今後に在りては、床の周囲附近一帯の森林美を回復して以て床と川との風景を調和せしめざるべからず。すなわち今日の寺院の対岸一帯の地

域は扁柏「ヒノキ」、花柏「さわら」等の針葉樹を成る可く、天然に生せるが如き様に植栽し、且民家または畑地等の見えざる様岸上の部を直ちに森林を以て被い、以て川と床との俗了を防がざるべからず。尙現時寺院の境内はすこぶる寢寛の展望に適當も、崖上に新造せる手摺「てすり」高さを以て展望を妨げ觀覽者に不快を感ぜしむるを以て、適度の高さに切り下ぐると同時に、崖壁に生ずる雑木及び竹の枝葉は其切口の見えざる様功に切り透し、以て展望に便ならしむべし。

寢寛の床より上松駅に至る道路もまた改良の要あり。即ち今日国道の両側には適當の並木を植付け、以て夏季を涼しく、且春秋の風致を増さしむべし。尙寢寛寺の門前より国道に出づる道も、あまりに狹隘且不整なれば、之を二間以上の道幅に改良し、両側に前同様並木を植うべし。道幅二間に過ぎざる場合には並木は道外の畦畔または畑地に植えて可なり。尙簡本道の外に現在の経道を改良して副道となし、以て来遊者をして往復同一線に依らず、常に新たなる道を行せしむる様になすが如きは最も妙なり。若し夫れ道幅狭くして並木植栽の余地無き場合には、両側の桑樹を高木仕立になし、又は柿の木の種類を道端の畑に植へしむるも可なり。要は只暑中に炎暑の苦を忘れしむる爲めに、適當の庇陰「ひいん」樹を存するを以て目的となすべきなり。

#### 蘇峽「そきょう」一帯

所謂木曾路の本道は已に述べし如く、天然の風景美を破壊しつくされたるも、将来に於て能く其の設備を怠らざる時は漸く回復するを得べし。新たに植付けたる樹木が生長して美観を添ふるに至る迄には甚だ長年月を要するを以て、少しにても其今日に残存する風景美は周到なる注意を以て施業上に制限を加へ、之が保存に努めると共に、更に之を補足する道を講じ、又已に破壊せられたる所と雖、その美を回復する価値ある所は宜敷今日より之が挽回「ばんくわい」の道を講じ、漸を以て此蘇峽一帯に於ける天然風景美の回復改良をはからざるべからず。

尙又名所旧跡寢寛の床及び卯の木澤の御料林其他一般の来遊者の意に投ずる個所の如きは、汽車中に於ける展望また極めて必要なれば、各停車場には必ずこの駅より何分先きに何々を過ぎ、何分時にして左方に何々の旧蹟あり等の掲示をなし置き、以て車中の旅客に先つ注意を喚起し置き、更に汽車の進行中経過する所の各名所旧蹟等には、最も見易き場所に其名勝の並札を設け置くべし。停車

場の立札は近く詳しく可とするも、汽車の疾走中に見せしむる立札は、線路より数十間離れて大きく簡単に書くを要す。尚絵葉書其他により、名所旧蹟の位置図を作り、広く販売せしむるが如きも、木曾路の風景美を紹介するには必要なる方法なり。

賤母「しずも」御料林「りよりん」

第二回遊線の内賤母御料林は木曾街道中天然の森林美を存せる唯一の原生林にして、之により今尚古への木曾路の風景を代表するを得べきものなり。故に此森林は厳かに伐採を禁するの方法を講じ、風至並に土砂防止「かんし」の保安禁伐林として永久に現状のまま保存せざるべからず。特に右森林の大部分は岩石磊々たる「らいらいたる」傾斜地にして、一度之を裸出する時は容易に再び森林となすべからず。一方には街路に対し岩石崩壊の危険もあれば、是非共沿道の両側にして街道より見ゆる所は之を禁伐林となさざるべからず。幸いに御料局に於ても今日は之を保存するの方針なる由なるも、何時如何なる支配者の出で来りて之が伐採を企つるやも知る可からず。すでに先年賤母御料林の一部を伐採せし痕跡さへある程なれば、今日に於て永久に互る安全なる方法を講ずると同時に、更に二公園林的設備をなすを要す。即ち林内の国道中風景の観るべき所、綠翠「りよくすい」の掬す「きくす」べき辺には、自然的腰掛を造り、自由の休息に委すべし。尚賤母御料林中の国道と木曾川との間に廣き平林の存する所には川に沿つて国道より分派せる遊歩道を作り、綠蔭中より碧潭「へきたん」を展望すべく、各所に岩石又は倒木の根株等によりて腰掛を設け、休息に便らしむ可し。

賤母御料林内の国道は木曾谷中の廻遊線路として最も良好にして、右に田立の瀧を繋ぎ、左は妻籠の城山に連絡する主要遊覽地なるにより、林内を美化する爲め路傍の各所に二三株ずつ塊状又は散生的にモミジまたはヤマザクラの類を植へ、その林冠を疎開したる個所にも、また紅葉樹或は花木を補植し、以て春秋の風致を増すべし。由来賤母御料林には広葉樹の紅葉すべきもの多く、秋季の景色は極めて有名なりと雖、天然生のものみにては吾人の遊覽に便なる所に於て、却て不足せる場合少なからざれば、道路より見ゆる綠蔭間の岩石上にモミジ又はヤマザクラを植へ、または路辺の岩石上にツツジ、ドウダンツツジの類を補植し、其他針葉樹のみにてあまりに黒色のみ勝つたる部分には、所々一二株のモミジ、ヤマザ

クラの類を混植して以て其風景に点晴すべし。但し何れの場合にも此等花木の補植には恰も天然に生すべき位置を選び、且天然生の如き状態に栽植するを要し、一列又は同距離になして人口植栽なる感を起さしむる事なき様注意すべし。また、「犬掃りの険」「いぬかえりのけん」等には岩石又は樹木に地名を表示し置く可とす。

妻籠の城山は第一回遊線中にありて展望甚だ佳なれば道路を改良し、路傍の森林を培養して日蔭樹をなさしめ、以て登攀者「とうはんしゃ」に涼を与へ、上部にも飲料水其他遊園的設備をなすべし、彼の小島を捕ふる小屋の如きは一の名物として存置し、来遊者に見せしむべし。尚其下部なる宇沼田の果樹園の如きにも之を改良して総覽せしめ、且其生産物を一定価格に購買するに於ては又客を呼ぶの手段となるべし。尚此城山には回遊者は一方より上れば他の反対の側に下りて余り道の損せざる様道路を造るを要す。

王瀧道路と常盤橋

第二回遊線中常盤橋に至る王瀧道路は現今殆んど俗了し終り、路上汚物散乱岩石露出し歩行容易ならざれば、御嶽登山者の爲め又は木曾森林美探勝者の爲めに大に改良の要あり。尚成る可くは数年後に敷設さるべき帝室林野管理局森林鉄道を利用して、其往復に便せしめざる可らず。

福島町より約二里の無趣味なる悪道を過ぎて達する常盤橋は、橋下に清潭「せいたん」を濼「ただよ」わし、橋上に深緑を翳し「かさし」、座つに爽快を感ぜしめ、此附近唯一の名勝地なり。只若し一度此岸上の森林を破壊するならば、全く枯骨を干天に曝すの觀あるべきを以て、此森林も永久的保存の法を講ずるの必要あり。

鞍馬「あまば」の景

常盤橋と同じく、第二回遊線中にありて常盤橋より上流二里四町に位し、其風景は木曾谷第一（写真参照）と称べく、其溪流屈曲数町に互る両崖、屹立幾百尺なる岩上に深緑の天然林を有し、何等人工を加へず何等塵埃「じんあい」を止めず全く俗界を超越せる天界の天然美を現わす。若し夫れ扁舟「へんしゅう」に棹して碧潭に望まんか、鑿「のみ」もて削り成せるが如き高さ数百尺の岩壁は青藍の水と相映じて秀麗比すべきなし。扁舟進むに従い、溪流の四周全く断崖に封ぜられ、仰ぎ

て遙かに断崖上に立てるヒノキ林の間より上天の一方を見得るに過ぎず。加ふるに溪流中の岩石は、或は寢覺の床に似て俗に小寢覺と称せらるるあり。或は奇岩怪石の溪流を遮りて一大瀑布をなし、恰も日光龍頭の瀧に似たるあり。其左岸数百尺の高さなる岩壁の罅隙「かげき」より直下する絹糸を垂れたる如き瀑布及び岩間、木の間に埃乱れたるツツジの花は緑樹の影と共に青潭「せいたん」に沈みて、香魚花氈上「せんじょう」に躍るの風情あり、真に是れ身は千尋の溪谷中に在りて神仙に導かるるが如き感あり。其状世界の絶景と称せらるる彼の奥太利「オーストリア」のエト・モン・ドグラウに似て之に勝るものなり。エトモンドグラウには婦人の船子ありて客を誘い、碧淵「へきたん」は漁漁をなすの便あり、遊覽者をして舟中鮮魚を調理せしむるの設備あり。鞍馬の景も如斯舟筏「かくのごとししゅうばつ」の設備自由ならしめ、加ふるに魚漁の楽しみあらしめば、何ぞエトモンドグラウに譲らんや。宜しく今より魚漁組合を設けて魚漁を制限し、両岸は禁伐林として永久に保存し、只三隻の小船を置き、其船に乗る道と船より降りて登る道と、完全になすのみにして、一切新道開削等の土工を禁じ、以て此無類の絶景を損傷するを避けざる可らず。今日の如く単に鞍馬橋上より俯観するのみにては、此天景の真を知る能はず、須らく容易に船にて遊覽し得る設備を要す。

水ヶ瀬

第三回遊線内に在りて鞍馬に垂げる絶影なるも、惜い哉岸上の森林を伐採せる爲め、漸やく俗了し去らんとす。只其上流鹹川濁川には今日尙廣大なる美林を備ふるを以て回遊地に編入し、此等天然の美林の濫伐を禁するに於ては、将来交通機關の発達に伴い、避暑又別荘地若くは遊覽地として自然に靜かなる森林美を探るの地なるべし。抑々歐米人士の如きは鬱蒼たる大林中に避暑し、朝夕林内を散策するを好むもの多ければ、将来森林鉄道の敷設せられて尙此附近の森林を保護し得ば、必ずや外人向の好避暑地となるべきものなり。

御嶽神社

王瀧村社御嶽神社は山上の御嶽神社の郷宮にして村落の上部に位し、境内老樹鬱蒼とし、来遊者をして思はず森敷を感じせしめ、俗界を脱出せるを覚えしむ。而して此神社は継持の方法確立せるを以て、境外瀧氏の所有森林と併せ風致保安林として保存するの必要を認め。

田立の瀧

多種多様且つ壮大なる瀑布を同一地域内に観得ると、且、瀧の附近が自然的な美林なるとに於て、蓋し「けたし」比類なき瀑布と称すべきから、世に瀑布の大きなものも美観なるもの少なからず、彼の日光の如きは瀑布を以て有名なりと雖も、何れも各所に散在し、少なくとも六七里を歩行するにあらざれば、数種瀧を見る事能はざるなり。然るに田立の瀧は僅か十数町の間に不動瀧、天河瀧、一名百間瀧、霧ヶ瀧、螺旋瀧其他数ヶの瀑布を集め、其多くは数十間の大瀑布にして各異なる美観を呈し、加へるに其位置たる海拔三千三百尺乃至三千八百九十尺の間にして、御料林八百余町歩の木管五木(ヒノキ、サハラ、ヒバ、カウヤマキ、ネツコ)の美林中に在り。攀登者「よじのぼるもの」をして先ず其森林の美に打たれしめ、更に進んで瀧に至れば、四週の蒼鬱「おううつ」たる森林と相俟つて「あいまって」一層山水の靈に感觸せしむるものなり。此数個の瀑布を賞し、更に最上の瀧の上に至るや、清冽なる岩石の間に幾多の小獲覚床、小龍頭の瀧、小含満ヶ淵「こがまがち」を存して之を徒歩するの快云う可からざるものあり。由来此田立の瀧は阪下駅より僅かに二里、汽車中より遙かに之を山獄の中腹に散見し得る如き、比較的便利の位置に在るに拘わらず、今日まで世に知られざりしは、全く該地方古来の伝説として、人の此瀧を訪ふものあらば必ず恐るべき神罰ありと称せられ、道路の皆無なりしに起因せずんばならず。故に此等勝景の地には努めて設備を完全に、以て廣く世に紹介するを努むべし。而して将来の設備としては、御料林に於ては今年年中に瀧麓まで道路を開設することとなり居るを以て、民間に於ても俗称砂場平より里道橋場に至る迄約一里の間は幅三間の車道となし、其道路の両側には三四間置きに日蔭となるべき澗「かづ」葉樹の並木を植付け、林内は現在の歩道を瀧の上部まで延長し、別に川の左岸に小径を造り、曠路に便せしめ、途中或は飛石により或は倒木の自然的小橋を架し置く可し。尙道路の曲点大木の根本等の庇蔭地には自然的の腰掛を備へ、又飲料水と用水とを区別したる標示をなし、瀧の位置休憩所、便所、料理店、ホテル等も各所に標示すべきなり。元來園地に於て日傘を用いる如きは矛盾の甚しきものにして、歐洲等にありては路傍にりんご其他の果樹又は日蔭樹を植付けたるが故、夏季日傘を用ふる者は狂人と云はれ居る程なり。若し夫れ路傍に並木植栽の余地なき所は、並木を植付くるに當たり、道路

外に二尺乃至三尺位の半円形の土地を造りて此処に植け、果実の收入によりて田畑の作物の減収を補うも可なり。

尚田立村の養鯉事業は将来有望なる事業なれば、之が拡張を計り、遊覽者に對し、鮮魚を供するの設備をなすは、極めて趣味多き事業なり。然るに世間往々見る處の弊風は遊覽者多きに至らば不當「ふとう」の利益を貪り、価格の不統一を來すにあり。如斯「かくのごとし」は最も注意を要すべき事柄にして、土地の繁栄を計らんとせば、必ず物価を統一して、購入者をして安心して充分に慰樂「いらく」することを得せしむるにありと云ふべし。

備考

(一) 避暑地、遊覽地、回遊線

今日の状態に鑑み避暑地としては、日義村大原を最も好適地と思考するも、短時日の調査に於ては倒底正鵠「せいこく」を得たる意見を發表すること頗る「すこぶる」困難なりとす。又遊覽地としては、田立の瀧、賤母御料林、城山の史跡を連結したる回遊線を第一に算せざる可らず。

(二) 乗車

回遊線は鉄道、馬車、人力車等連結の切符を發行し歩行乗車等自由に選擇「せんたく」せしめ、且其實錢を一定し置き、明かに之を標示すること最も必要なりとす。

(三) 表示、案内、名物座

遊覽地は全て宿料並に物価等を表示し、又遊覽地の案内記を作り地図を挿入して地理を知悉「しつ」せしむるに便ならしめ衙「が」、附近遊覽地に於て各種の名産物等を一定の価格を以て販賣すること等は木曾谷發展の一助となるべし。

(四) 路傍のモミジ、サクラ

遊覽客の増加に伴、路傍のモミジ、サクラ等を折るもの増加すべければ之を防止の法を講ぜざるべからず。日光より中禅寺湯本に至る一帯の林内は「紅葉其他の枝を採るものは警察犯處罰令により二百円未満の科料に處せらるべし」日光警察署なる立札を立て二三の犯罪者を罰せし。以来今日始と全く採る者なきに至れりと云う。

(終り)

【後記】

現代語に変換して伝えることの難しさを痛感しました。(加藤)

先人の考えに文を通じて触れることが出き、良い経験となりました。(小林)

そこに元々ある景観を大事に利用策は練られているのだと感じました。(竹内)

本稿の位置付けを別稿「本多静六と関連する長野県内の公園・温泉地・風景地の計画書の目録および現代的価値」に記しました。ご覧下さい。(横関)